

第 16 回住宅系研究報告会

＜主催＞建築計画委員会・建築社会システム委員会・都市計画委員会・農村計画委員会

住宅・住宅系まちづくりのテーマは、建築計画・建築社会システム・都市計画・農村計画などで取り上げられ、大会では毎年多くの論文が発表されています。昨年度に引き続き、横断的な発表・討論の場を設定し、研究成果の共有、研究者間の交流を続けるため、第 16 回目の住宅系研究報告会を開催します。

報告会では発表・討論の機会を重視し、司会とは別にコメンテーターを設け、意見交換や議論を通してさらに研究や活動が発展することを意図しています。

また、第一日目にパネルディスカッションを開催し、総合的な議論の機会を設けます。

期 日:2021 年 12 月 3 日(金)・4 日(土)

会 場:オンライン開催 (Zoom)

参加費:会員 3,000 円、会員外 4,000 円、学生 1,500 円

資料別売 会員:5,000 円(送料込み)

会員外:5,000+700 円(送料:700 円)

※なお、資料は報告会終了後、建築書店で購入できます。

定 員:70 名(申込先着順)

申込方法:オンライン開催のため、Web による要事前申込

申込締切:11 月 23 日(火)

<https://www.aij.or.jp/event/detail.html?productId=653378>

支払方法:クレジットカード決済のみ

※領収書は「クレジットの振り込み明細」とさせていただきます。

領収書が必要な場合は、「お申し込み受付完了通知メール」を印刷のうえ、「領収書希望」と明記し、返信用封筒(84 円切手貼付、宛名記入)と併せて下記の送付先までお送りください。折り返し 12 月 2 日以降に領収書をお送りします。宛名は勤務先名とさせていただきますが、ほかに宛名の指定がある場合は、その旨あわせて明記してください。

【送付先】〒108-8414 東京都港区芝 5 丁目 26 番 20 号

日本建築学会「第 16 回住宅系研究報告会」係

アクセス方法:開催日前までにメールでお知らせいたします。

Zoom を最新バージョンに更新してご参加ください。

建築 CPD:12 月 3 日【6 単位】、12 月 4 日【5 単位】

問合せ:住宅系研究報告会 jyutakuken@aij.or.jp

住宅系研究報告会 HP:<http://news-sv.aij.or.jp/jyutakuken/>

オンライン参加される方への注意事項

- (1)お申し込み後の返金は一切いたしかねますのであらかじめご了承ください。受信側の PC・タブレットの障害やインターネット回線の障害により接続不良が生じた場合でも、返金はいたしませんのでご了承ください。
- (2)Zoom 公式サイトでテスト接続が可能です。お申し込み前に必ずテストをしてください。◆Zoom 接続テストページ <https://zoom.us/test>
- (3)接続に関してご不明なことは Zoom ヘルプセンター等でご確認ください。接続方法についてのご相談はお受けいたしかねます。◆Zoom ヘルプセンター <https://support.zoom.us/hc/ja>
- (4)個人単位でお申し込み下さい。1 人のお申し込みにより複数人で視聴したり、参加用 URL をシェアしたりすることは固くお断りいたします。
- (5)開催 30 分前から入室を可能にしますので、当日は早めに接続して音声・映像等がきちんと流れるか確認されることを推奨します。
- (6)スクリーンショットや録音・録画はご遠慮ください。

パネルディスカッション(12 月 3 日(金)15:00~17:00)

「災害危険区域化した元居住地の行方」

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた自治体の多くは、津波等による被災の危険性が高い区域において土地利用規制を行い将来的な自然災害のリスクを軽減するため、沿岸部に災害危険区域を指定し、居住用建築物等の立地規制及び構造制限を行っている。岩手・宮城・福島県合わせて 25 自治体が沿岸部に危険区域を指定した。区域の指定では、防潮堤整備後のシミュレーションを基準とした指定、今次津波の浸水域を元にした指定、防災集団移転促進事業による移転跡地の買い取りを前提とした敷地単位で指定したものなど区域ごとに基準が異なる。ハザードに対して、リスク設定の難しさが指摘される。

震災から 10 年が経ち、災害危険区域に指定されたエリアに住居を構えていた人びとは、内陸や高台等に移転し新たな居住地で再建をされているが、災害危険区域に指定されたエリアの活用はどうなっているのだろうか。災害危険区域化した元居住地に対して、例えば、親族や近い人をなくしたからもう近づきたくないという感情がある一方で、代々受け継いできた土地の記憶を何らかの形で継承したいといった様々な思いが錯綜する。あるいは、居住地として再建できない土地に再び戻れないことに、喪失感を感じている人もいるだろう。

本シンポジウムでは、震災から 10 年にわたって仙台・荒浜地区の被災コミュニティ支援に関わってきた新井信幸氏に、災害危険区域におけるインクルーシブ・パークの提案を含むこれまでの活動についてお話いただく。また、都市計画、土地利用を専門とする姥浦道生氏をコメンテーターとして、当研究報告会メンバーを交え、災害危険区域化した元居住地の跡地活用のあり方について議論する。

講演:新井信幸(東北工業大学)

コメンテーター:姥浦道生(東北大学)

ディスカッション:上記 2 名に加え、藤岡泰寛(横浜国立大学)、内海康也(国土技術政策総合研究所)、益尾孝祐(愛知工業大学)、友淵貴之(宮城大学)

司会:宮原真美子(佐賀大学)

ディスカッション司会:前田昌弘(京都大学)

まとめ:深井祐紘(明星大学)

企画・コーディネイト:建築計画

(パネルディスカッション:手話通訳付き)

＜プログラム＞

(発表時間 10 分・質疑応答 5 分、コメンテーターによる講評 15 分、○印は発表者)

1 日目 12 月 3 日(金)

開会の挨拶(10:00~10:10)

関川華(近畿大学)

セッション1 空き家の活用と居住支援(10:10~11:10)

司会:渡邊史郎(国土技術政策総合研究所)、

副司会:山本幸子(筑波大学)

コメンテーター:長谷川洋(国総研)

1. (報告区分 1) 東北地方の空き家所有者の空き家活用意向に関する実態—市場流通化に寄与する事業創出を念頭において—

○高澤由美(山形大学)

2. (報告区分1) 中山間地域における空き家の利活用と移住促進事業の運営体制に関する研究－福岡県那珂川市移住促進事業 SUMITSUKE 那珂川を事例として－

○宮原真美子(佐賀大学)

3. (報告区分1) 遠隔地避難者を対象とした居住支援の実施状況と業務内容－東日本大震災後の岩手県盛岡市を対象として－

○須沢栞(日本女子大学)、外柳万里、大月敏雄、新井信幸、李鎔根、井本佐保里

セッション2 空間の利用とコミュニティの構築(11:20～12:35)

司会:宮原真美子(佐賀大学)、副司会:深井祐紘(明星大学)

コメンテーター:牧野唯(東京学芸大学)

4. (報告区分1) 大阪市の都市型保育所における屋外活動空間の利用実態に関する研究

○関川華(近畿大学)、馬岡諒

5. (報告区分1) 大規模災害後の被災者のコミュニティ再構築に関する研究－石巻市北上地区にっこり団地を事例として－

○藤元藍理(東北大学)、佃悠、前田昌弘、小野田泰明

6. (報告区分1) 公的賃貸集合住宅におけるDIY工場の設置方法と運営手法

○鄭弼溶(神戸大学)

7. (報告区分1) 地域居住福祉施設群「輪島 KABULET」の開設3年後の「社会化」－西川英治「ごちゃまぜ」設計論の検証－

○笠川睦(西日本旅客鉄道)、山崎寿一、山口秀文

セッション3 居住地の持続と変容(13:35～14:50)

司会:益尾孝祐(愛知工業大学)、副司会:山口秀文(神戸大学)

コメンテーター:室田昌子(東京都市大学)

8. (報告区分1) 地形・集落の歴史的基盤条件との関係に着目した近代住宅地の景観特性の持続に関する考察－神戸市住吉・御影地域を対象として－

○金隼泳(神戸大学)、山崎寿一、山口秀文、陳鍼

9. (報告区分1) 自然・地場産業を基盤とした固有の空間秩序による市街地空間の重層性と都市の計画課題－神戸市住吉・御影地区を対象として－

○陳鍼(神戸大学)、山崎寿一、山口秀文

10. (報告区分1) 賃貸集合住宅から分譲戸建住宅へと転用された街区の評価に関する研究－香里団地における団地再生事業を事例として－

○土井睦浩(独立行政法人都市再生機構)、井上えり子

11. (報告区分2) 大規模災害後の集落帰還に向けた高台移転プロセスに関する研究－宮城県気仙沼市大沢地区における防災集団移転促進事業の計画検討前半の論点－

○磯村和樹(神戸大学)、友淵貴之、槻橋修

2日目 12月4日(土)

セッション4 暮らしやすさの評価(10:00～11:00)

司会:藤岡泰寛(横浜国立大学)、副司会:関川華(近畿大学)

コメンテーター:鈴木雅之(千葉大学)

12. (報告区分1) 高齢者にとっての災害公営住宅の「暮らしやすさ」に関する研究－岩手県大船渡市の災害公営住宅を事例として－

○中島美登子(香川大学)

13. (報告区分1) 郡山市内のサービス付き高齢者向け住宅における入居者ニーズと建築環境の関係性に関する研究

○山田義文(日本大学)、王健嬌

14. (報告区分1) アンケート調査によるコロナ禍における在宅勤務・受講時の住宅の使われ方と課題に関する研究

○太田匡哉(名古屋大学)、小松尚

セッション5 住まい・公共空間の維持管理と制度(11:10～12:25)

司会:後藤智香子(東京大学)、副司会:小山雄資(鹿児島大学)

コメンテーター:藤本秀一(国土技術政策総合研究所)

15. (報告区分3) 建築基準法を技術的間接制御手段とした住宅政策の一考察

○増淵昌利(増淵昌利建築安全研究所)

16. (報告区分1) 都心部立地の高経年コーポラティブ住宅群における次世代所有者の動向－同年代、同規模の特質を持つ「都住創」シリーズの比較を通して－

○宮野順子(武庫川女子大学)、和田将吾、高岡伸一、荒木公樹

17. (報告区分1) 民間事業者が複数の公園を包括管理する利点と問題点に関する研究－西東京市の包括指定管理者制度を事例として－

○塩沢厚人(千葉大学)、松浦健治郎

18. (報告区分1) 首都圏近郊都市の不動産データに基づく分譲マンション建替への判別

○太田英輝(筑波大学)、花里俊廣

セッション6 居住地の地域資源と愛着・記憶(13:25～14:40)

司会:山口秀文(神戸大学)、副司会:益尾孝祐(愛知工業大学)

コメンテーター:桑田仁(芝浦工業大学)

19. (報告区分2) 山麓密集市街地における生活空間の場所性に関する研究

○谷口浩都(神戸大学)、槻橋修

20. (報告区分1) 郊外戸建住宅地における地域との関わりと地域愛着の関係性に関する研究

－大阪府堺市美原区さつき野団地と兵庫県三木市緑が丘住宅地を対象に－

○青木嵩(大阪大学)、伊丹絵美子、伊丹康二、横田隆司、角野幸博

21. (報告区分2) 横浜市郊外住宅地における地域資源の発掘と発信に関する実践的取組

○上野正也(神奈川大学)、山家京子、松本安生

22. (報告区分2) 春日ベース・ハウスの会を中心とした板付基地周辺の米軍ハウスに関する保存調査活動及び地域貢献活動

○松野尾仁美(九州産業大学)、中野秀孝、山村智子

セッション7 居住に関わる文化と伝統(14:50～15:50)

司会:三笠友洋(西日本工業大学)、副司会:友淵貴之(宮城大学)

コメンテーター:月館敏栄(雪国文化研究室)

23. (報告区分1) 近代化過程での「和室」という室名呼称の創出と配置領域についての研究

○西村幸太(大分大学)、郡司颯、柴田建、鈴木義弘

24. (報告区分1) 欧米在住イグル族の起居様式の実態と環境移行に伴う変化

○MAYILA AIZEZI(フリーランス)、梅本舞子

25. (報告区分1) 少数民族の近代住宅に見出される伝統的空間に関する研究－中国昆明市楽居村彝族の伝統的「一顆印」との関係性から－

○高璐(関西大学)、岡絵理子

閉会の挨拶(15:50～16:00)

藤岡泰寛(横浜国立大学)